



江南の子

令和5年度
第8号

読書キャンペーン

校長 藤塚 静治

11月17日付で当校「としょかんだより 11月」が発行されました。その中に、「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～（文部科学省）」が紹介されていました。

二次元バーコードからリンク先を開くと文部科学省のホームページになり、「おすすめの本はこちらから」というページになりました。教育、科学技術・文化、スポーツの各分野で活躍している8の方が、本の紹介とメッセージを寄せていました。どの本も興味が湧きましたが、その中でも三宅宏美さん（国際ウエイトリフティング連盟理事）が紹介していた

「夢をかなえるゾウ 1」（水野敬也／著 文響社）に目がとまりました。

まず、本の表紙の画像です。ゾウのような人が横たわっているイラストが描かれ、帯には「お前なあ、このままやと2000%成功でけへんで」と書かれています。そして、三宅さんの紹介文です。



私がロンドンオリンピックで銀メダル獲得に力をくれた大好きな一冊です。ゾウの姿をした神様が主人公に課題をだし人生を好転させ成功に導くストーリーです。シンプルで笑いあり涙ありの楽しめる素敵な本です。 ※ここでは一部抜粋して掲載しています。

ゾウのような人は「神様」なのかと少々不思議に思いながら、新潟市立図書館ホームページの予約サイトで本を借りました。内容は、落ち込んでいる主人公の「僕」に対して、くよくよと考えているだけでなく実際に行動を起こしてみるように「神様」が促していくというものでした。「神様」による、強引さと軽快さのある関西弁の言葉掛けによって「僕」はいろいろと気付いていきます。その過程がテンポよく展開していくので、どんどん読み進めていくことができました。

子ども対象のキャンペーンですが、大人が読んでもおもしろいと感じる本が紹介されていました。世界には数えきれない図書がある中、私たちが出会う本はその中のほんの一部、ひとつまみにも満たない冊数なのかもしれません。だからこそ、今回のキャンペーンに限らず、たまたま本を手にとってみる機会は、実は大事なのでしょう。

このキャンペーンは、子どもの中でも特に高校生に読書離れの傾向がみられることから行っているとのことでした。1か月に1冊も本を読まない「不読率」の割合は、小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%とのこと。当校「としょかんだより」に載っていた10月の貸出状況を平均すると、江南の子どもは低学年一人当たり14.6冊、中学年は8.7冊、高学年は8.2冊読んでいることとなります。さて、私たち大人の不読率はどのくらいなのでしょう。本の中で「神様」が言っていたことの一つに「一日何かをやめてみる（123ページ）」がありました。ぽっかりと空いた時間に新しいことを挑戦できると考えたとき、「読書」を選んでみるのもいいですね。





思い出のアルバム～4年・にじいろ音楽祭～



11月10日にりゅーとぴあで開催された『にじいろ音楽祭』に4年生の児童が参加しました。演奏した曲目は『楽しいマーチ』と『ジッパ・ディー・ドゥー・ダー』です。『楽しいマーチ』ではリズムに合わせて手をたたき楽しい雰囲気の中で音を奏でることができました。また、『ジッパ・ディー・ドゥー・ダー』では、鍵盤ハーモニカとリコーダー、そして特別楽器に分かれ、この日に向けて毎日一所懸命練習を重ねてきました。本番直前までよりよいものを目指し、満足できる演奏をつくり上げようと努力していました。にじいろ音楽祭当日も、入場から演奏、そして退場まで皆堂々とした態度で臨むことができました。4年生一人一人の心に残る一日になったと思います。みんなで作った素晴らしい発表会でした。

りゅーとぴあでの発表♪



とても素敵な発表でした！

リハーサルの様子

11月1日（水）の全校朝会では、全校の前でリハーサルをしました。こうした日々の練習の積み重ねが本番の大成功につながりました。

